

# 岡山県感染症週報 2017年 第40週 (10月2日～10月8日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

## ◆2017年 第40週 (10/2～10/8) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第38週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O121:40代 女)  
 第39週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:20代 男)  
 5類感染症 ウイルス性肝炎 2名 (40代 男 1名、60代 女 1名)  
 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (70代 男)  
 梅毒 3名 (30代 男 2名、40代 男 1名)  
 第40週 2類感染症 結核 1名 (80代 女)  
 4類感染症 日本紅斑熱 1名 (70代 女)  
 5類感染症 梅毒 1名 (20代 女)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RSウイルス感染症は、県全体で130名 (定点あたり2.13 → 2.41人) の報告があり、前週より増加しました。  
 ○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で58名 (定点あたり1.00 → 1.07人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第38週 (9/18～9/24) に1名、第39週 (9/25～10/1) に1名の報告があり、2017年第40週まで (～10/8) の報告数は56名となりました。岡山県では、ひきつづき「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **日本紅斑熱**は、1名の報告があり、2017年第40週まで (～10/8) の報告数は5名となりました。この感染症は、病原体 (日本紅斑熱リケッチア) を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は2～8日程度で、発熱、発しん、刺し口が3大特徴です。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**「日本紅斑熱」に注意しましょう。**』及び『**「ダニが媒介する感染症に注意しましょう。」**』をご覧ください。
3. **RSウイルス感染症**は、県全体で130名 (定点あたり2.13 → 2.41人) の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態で推移しています。地域別では倉敷市 (4.82人)、美作地域 (3.33人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域と真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。県内の発生状況など、詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
4. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で58名 (定点あたり1.00 → 1.07人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市 (1.64人)、岡山市 (1.43人)、備北地域 (1.25人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。のどの痛みがひどい場合は、柔らかい薄味の食事など調理の工夫をし、こまめな水分補給を心がけてください。就学前から学童期の小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★★★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▶	★★
感染性胃腸炎	▶	★★★	水痘	▶	★
手足口病	▲	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▲	★	百日咳	▲	★
ヘルパンギーナ	▼	★	流行性耳下腺炎	▲	★
急性出血性結膜炎	▶		流行性角結膜炎	▲	★
細菌性髄膜炎	▶		無菌性髄膜炎	▶	
マイコプラズマ肺炎	▲	★	クラミジア肺炎	▶	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▶	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

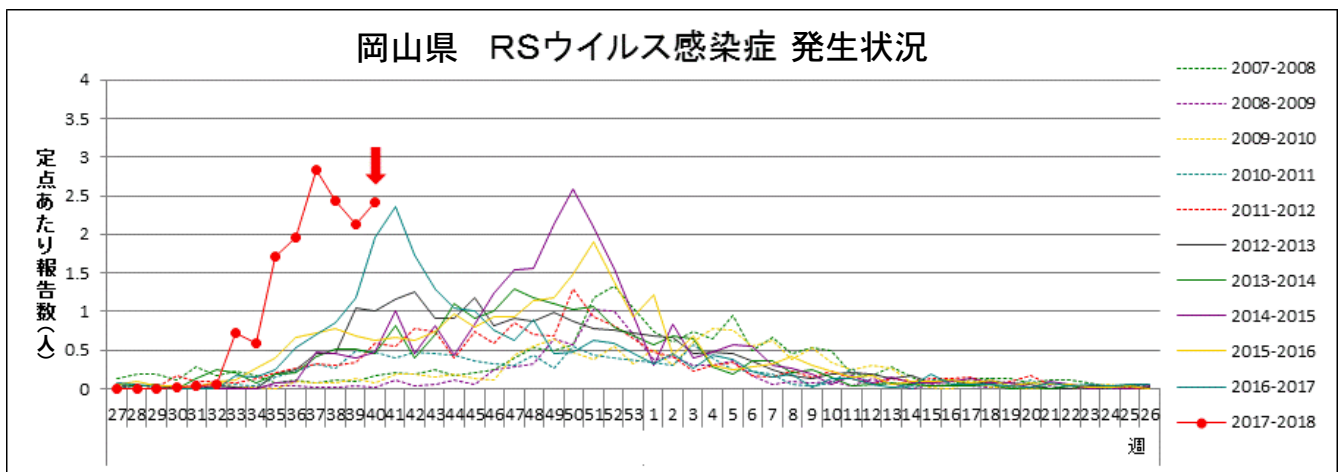
【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▶：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)  
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

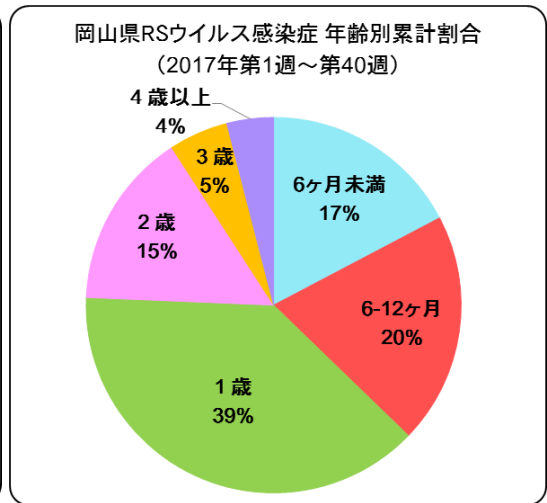
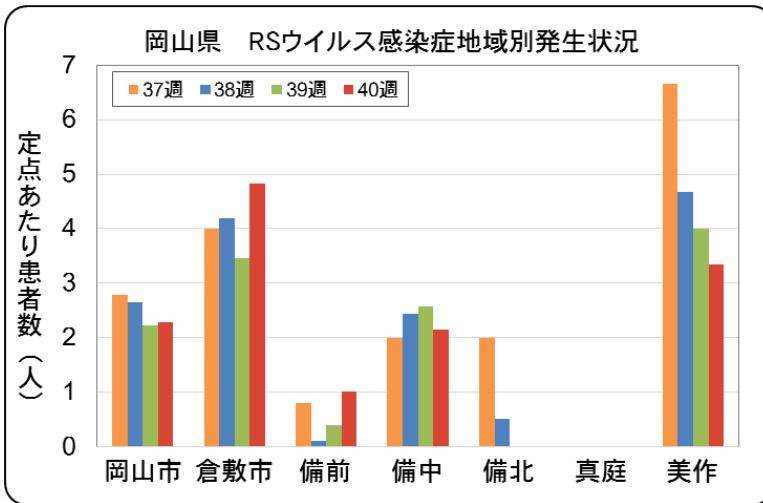
## 今週の注目感染症

### RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】



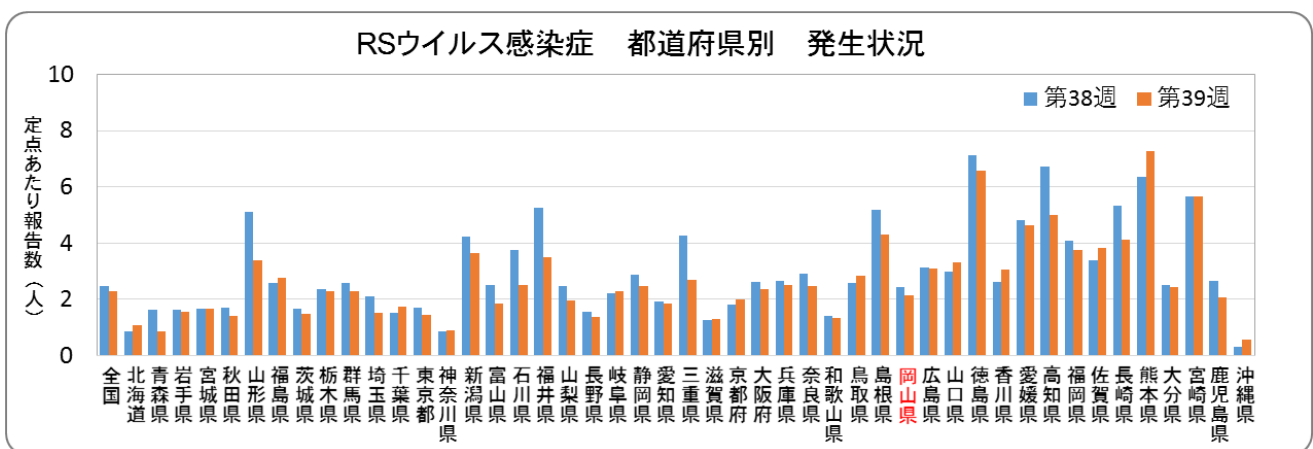
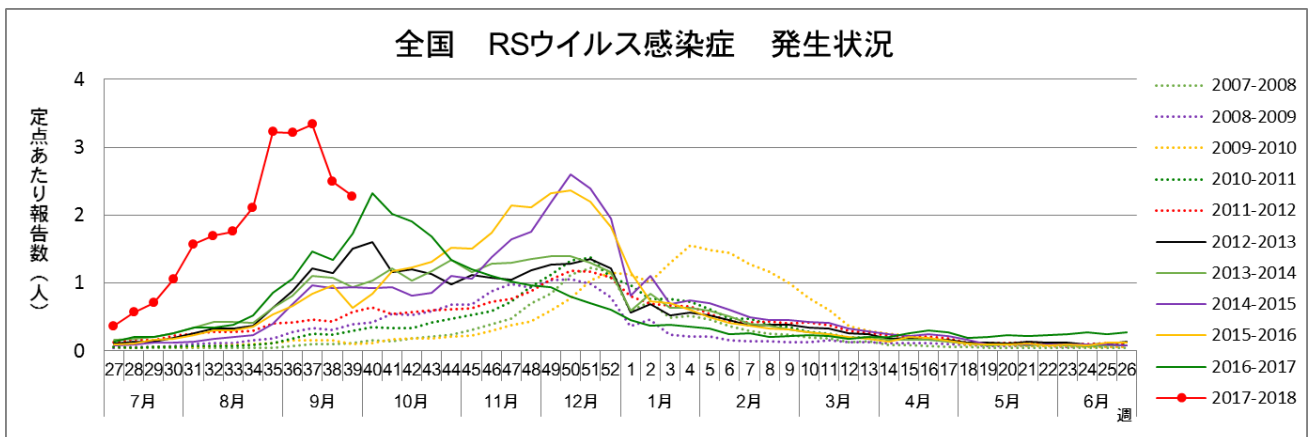
※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。



RSウイルス感染症は、県全体で130名（定点あたり2.13→2.41人）の報告があり、前週の減少から再び増加に転じました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態で推移しています。地域別では、倉敷市（4.82人）、美作地域（3.33人）の順で定点あたり報告数が増えており、備北地域と真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。

年齢別累計割合では、1歳以下の乳幼児が全体の76%を占めています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、特に重症化しやすい乳児がいる家庭では、感染予防に努めてください。

#### 【全国の発生状況】



全国の第39週（9/25～10/1）の発生状況は、定点あたり報告数が2.28人であり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。都道府県別では、熊本県（7.28人）、徳島県（6.57人）、宮崎県（5.57人）の順で定点あたり報告数が増えており、近隣県でも多くの患者が報告されています。

## 【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割で肺炎や細気管支炎といった重篤な症状がみられます。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのが鳴るなどの呼吸器症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて重症化しにくくなります。

## 【感染経路】

感染している人の咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめたりすることによる間接的な接触で感染します。

## 【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の防止につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。現在、RSウイルス感染症に有効なワクチンはありません。

## 【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

レジャーや作業など野外で活動する機会が増える季節です。  
**ダニが媒介する感染症に注意しましょう！**

今般、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)を発症したイヌからヒトに感染し、発症した事例が国内で確認されました。本年7月には、体調不良の野良ネコに咬まれたヒトがSFTSを発症し、死亡した事例が確認されています。(そのネコに咬まれたことが原因でSFTSに感染したかどうかは明らかではありません。)

SFTSは、マダニからの感染が一般的ですが、SFTSを発症した動物からも感染するおそれがあります。ペットに対するダニ対策を行うとともに野生動物との接触は避け、動物に触った後は、必ず手洗いをするなど感染予防に努めましょう。



フタトゲチマダニ  
岡山県環境保健センター

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、SFTSや日本紅斑熱、つづが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋(3~11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

### 【野外で活動する際の予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫よけ剤(ディートやイカリジンを含むもの)を使用しましょう。  
(虫よけ剤を子供へ使用する際は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。

### 【動物と触れ合う際の予防のポイント】

- ◎屋内のみで飼育されている動物については、感染のおそれはありませんが、過剰な触れ合い(キスや口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝ることなど)は控えましょう。
- ◎動物に触ったら必ず手洗い等をしましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、虫よけ剤などで予防しましょう。ダニがついていたときは、動物用の駆除剤等で適切に駆除しましょう。
- ◎飼育している動物の健康状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診しましょう。

### 【マダニがついていたとき】 ~マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません~

- ◎容易に取り除くことができる場合は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、ビニール袋などに入れて、保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

### 【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。
- ◎体調不良の動物と接触したり、咬まれたりした後、体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診してください。受診する際は、動物の健康状態や接触状況についても伝えてください。

[ダニ媒介感染症 \(厚生労働省\)](#)

[マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

[マダニに注意! \(岡山県チラシ\)](#)

[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2017年 40週(定点把握)

( 2017/10/02~2017/10/08 )

2017年10月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	5	0.23	-	-	1	0.07	-	-	-	-	-	-	1	0.10
RSウイルス感染症	130	2.41	32	2.29	53	4.82	10	1.00	15	2.14	-	-	-	-	20	3.33
咽頭結膜熱	9	0.17	4	0.29	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	1.07	20	1.43	18	1.64	7	0.70	5	0.71	5	1.25	-	-	3	0.50
感染性胃腸炎	292	5.41	86	6.14	36	3.27	42	4.20	24	3.43	39	9.75	34	17.00	31	5.17
水痘	9	0.17	-	-	3	0.27	2	0.20	1	0.14	2	0.50	-	-	1	0.17
手足口病	88	1.63	43	3.07	33	3.00	3	0.30	2	0.29	1	0.25	1	0.50	5	0.83
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
突発性発疹	18	0.33	14	1.00	2	0.18	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	3	0.60	2	0.50	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2017年 40週(発生レベル設定疾患)

( 2017/10/02~2017/10/08 )

2017年10月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	5	0.23	-	-	1	0.07	-	-	-	-	-	-	1	0.10
咽頭結膜熱	9	0.17	4	0.29	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	1.07	20	1.43	18	1.64	7	0.70	5	0.71	5	1.25	-	-	3	0.50
感染性胃腸炎	292	5.41	86	6.14	36	3.27	42	4.20	24	3.43	39	9.75	34	17.00	31	5.17
水痘	9	0.17	-	-	3	0.27	2	0.20	1	0.14	2	0.50	-	-	1	0.17
手足口病	88	1.63	43	3.07	33	3.00	3	0.30	2	0.29	1	0.25	1	0.50	5	0.83
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	3	0.60	2	0.50	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2017年 第40週 2017/10/02~2017/10/08 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	7	-	1	4	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	130	24	31	43	25	4	2	-	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	9	1	-	-	2	1	1	-	1	2	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	-	-	2	-	5	4	8	5	7	11	3	9	2
感染性胃腸炎	292	5	20	57	39	20	18	18	9	7	12	6	27	8
水痘	9	1	1	2	-	-	-	2	1	-	-	2	-	-
手足口病	88	-	5	29	17	13	9	7	3	1	-	1	2	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	18	-	6	7	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	3	-	-	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

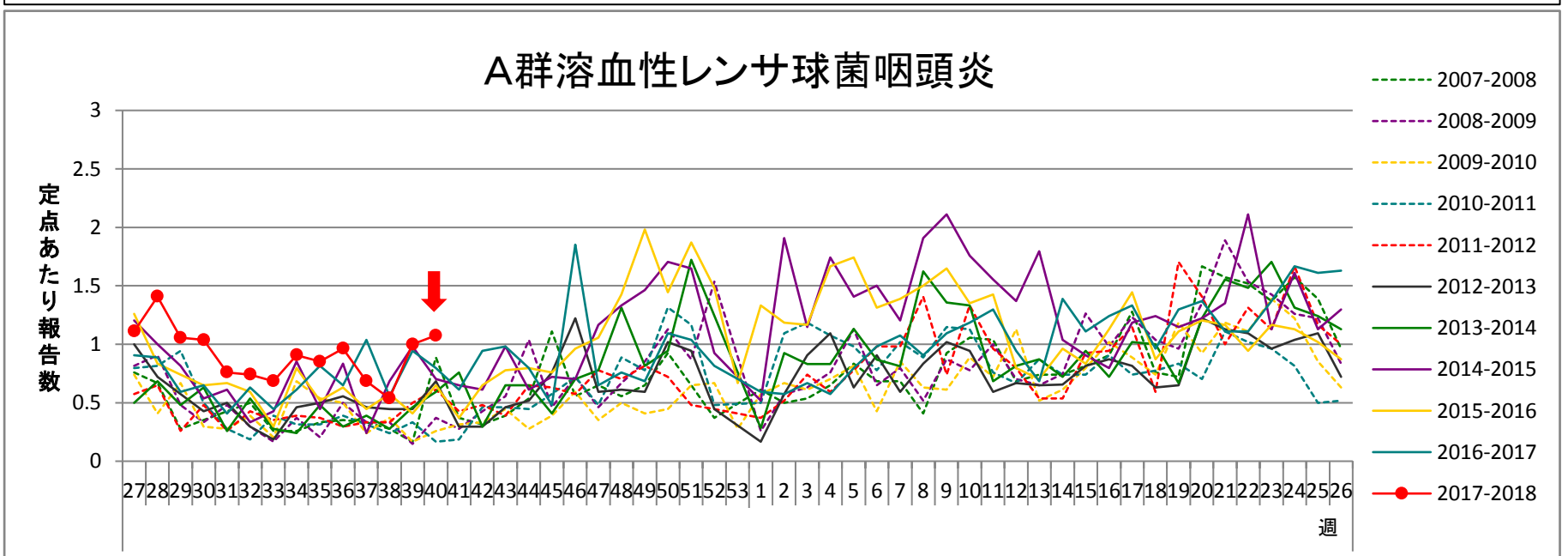
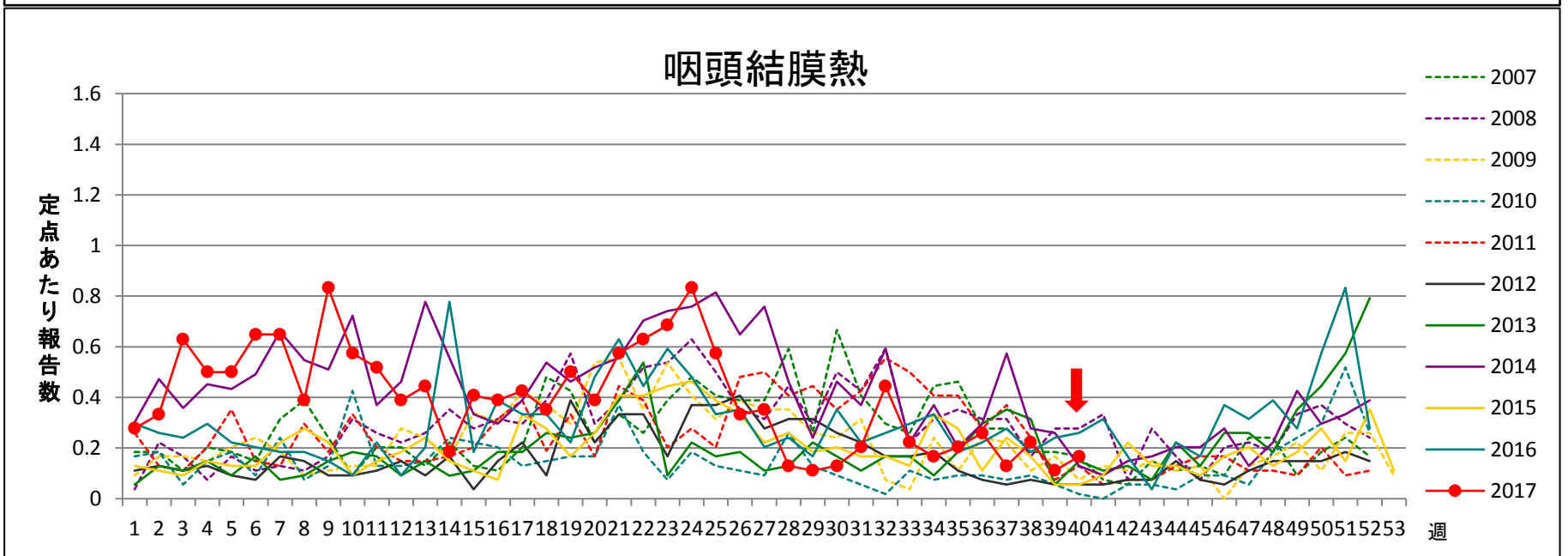
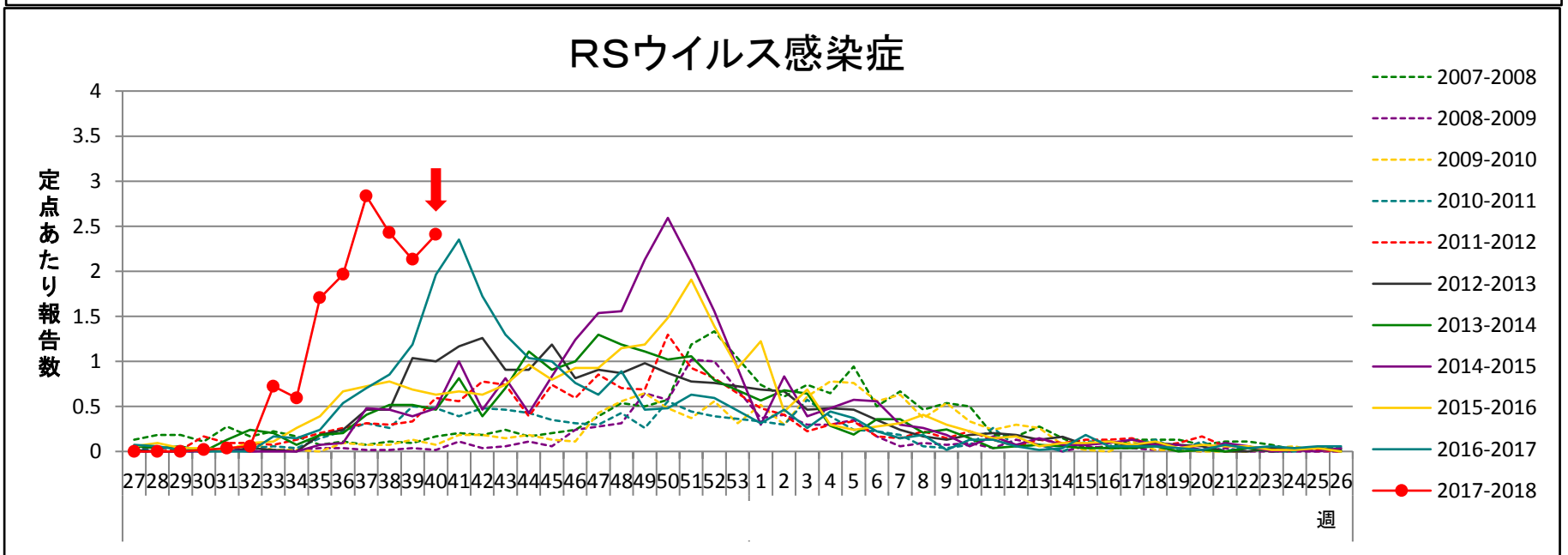
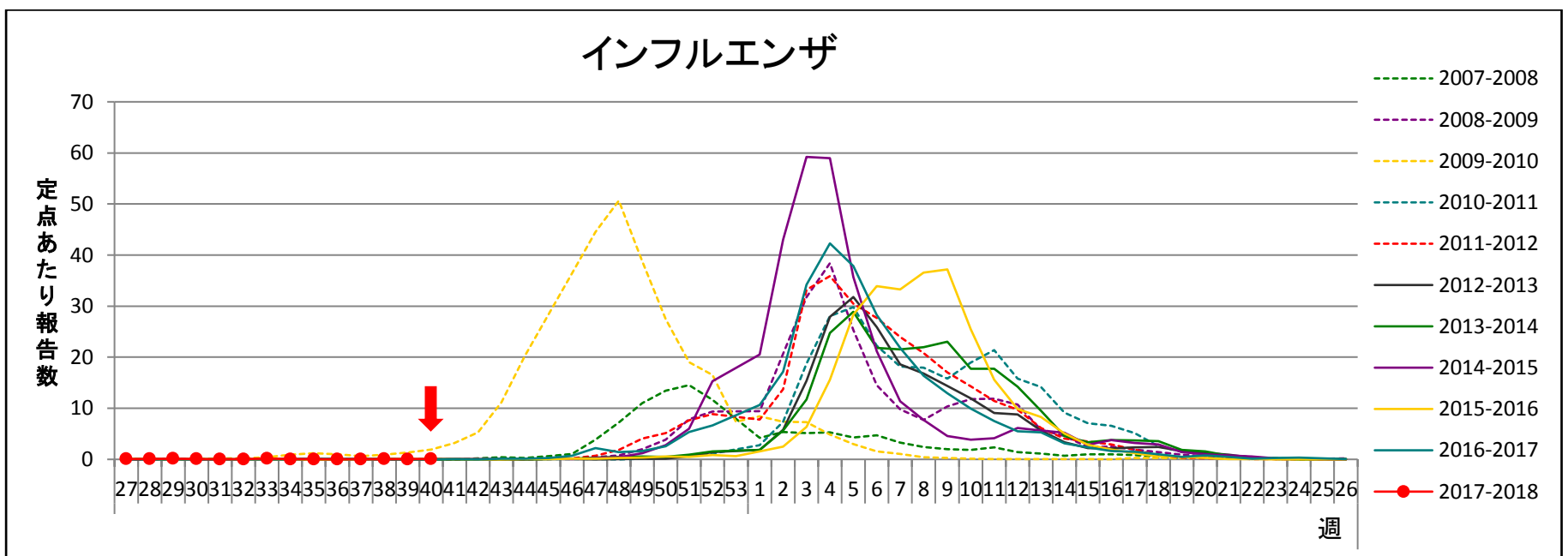
( - : 0 )



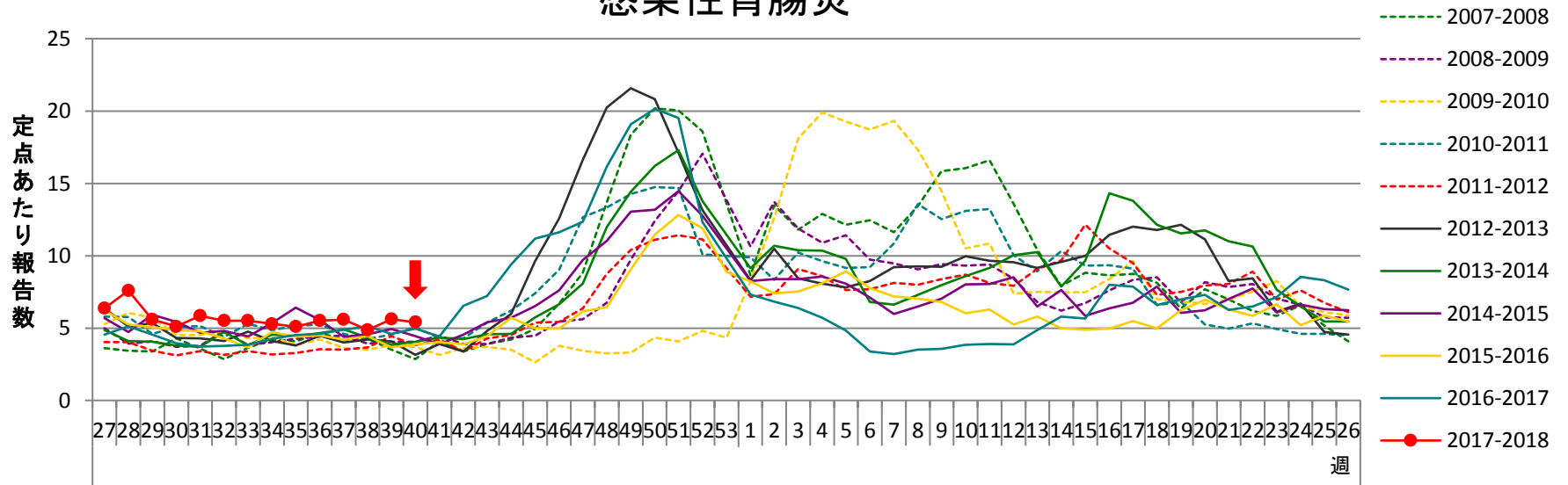
# 全数把握 感染症患者発生状況

2017年 40週

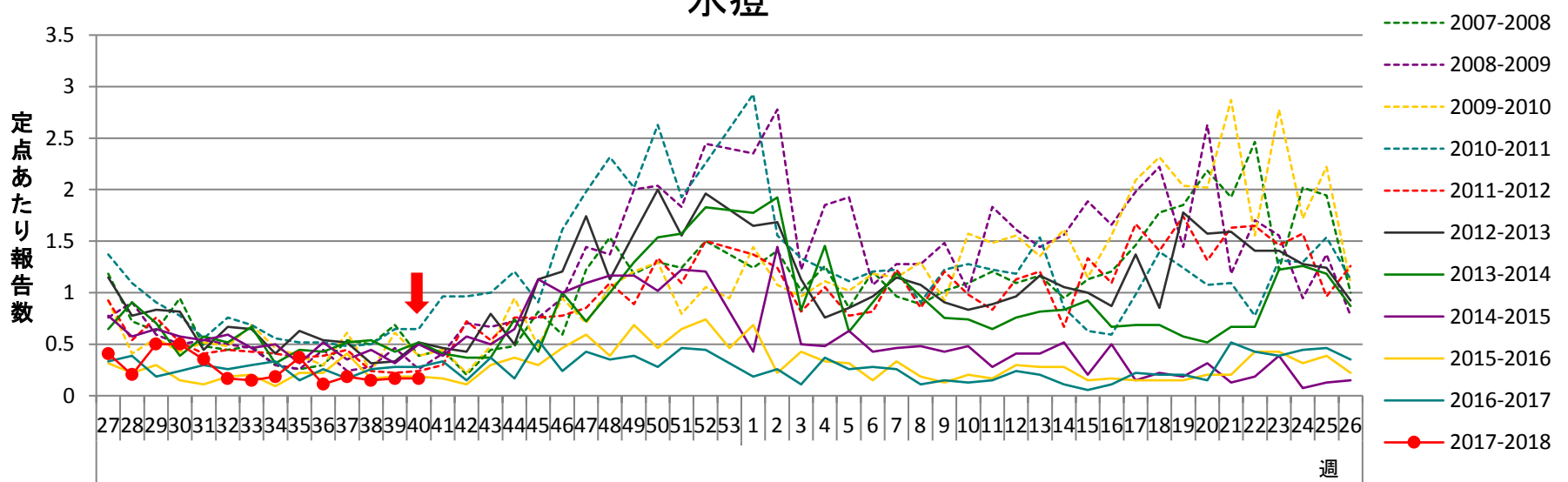
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	260	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	56	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-	-	-
	デング熱	-	2	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	1	5	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	19	26	-	-	-
レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-	
五類	アメーバ赤痢	-	18	18	ウイルス性肝炎	-	7	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	12	28	-	-	-
	急性脳炎	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	8	後天性免疫不全症候群	-	13	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	31	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	3	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	1	129	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	4	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



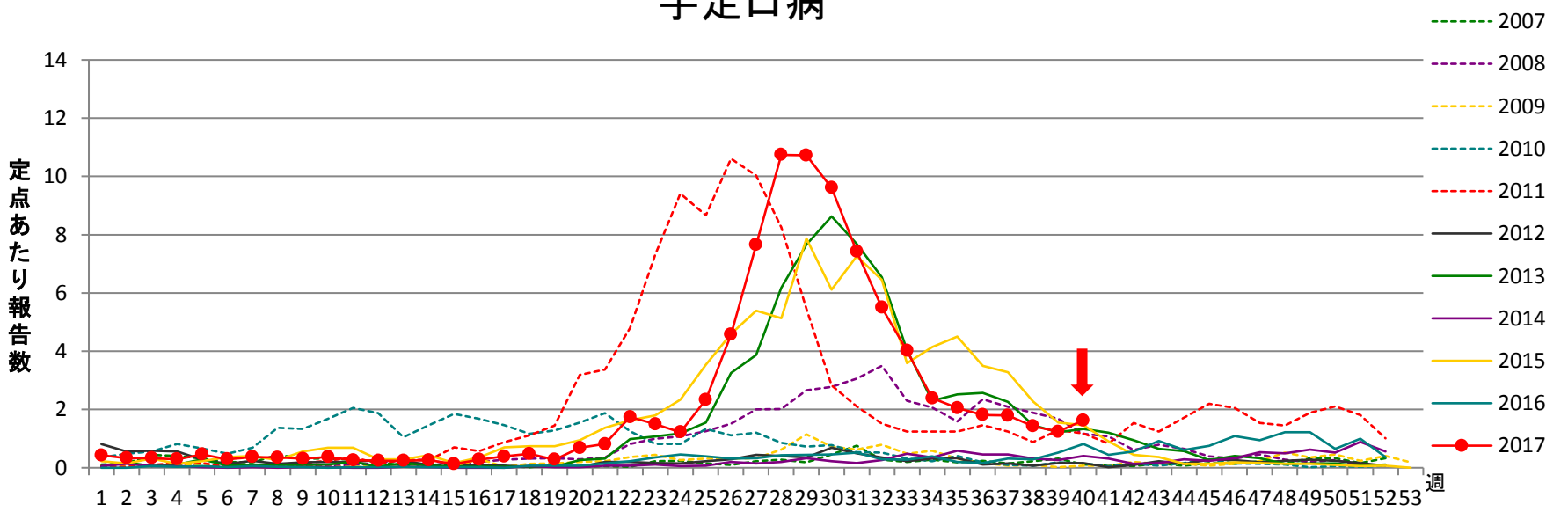
### 感染性胃腸炎



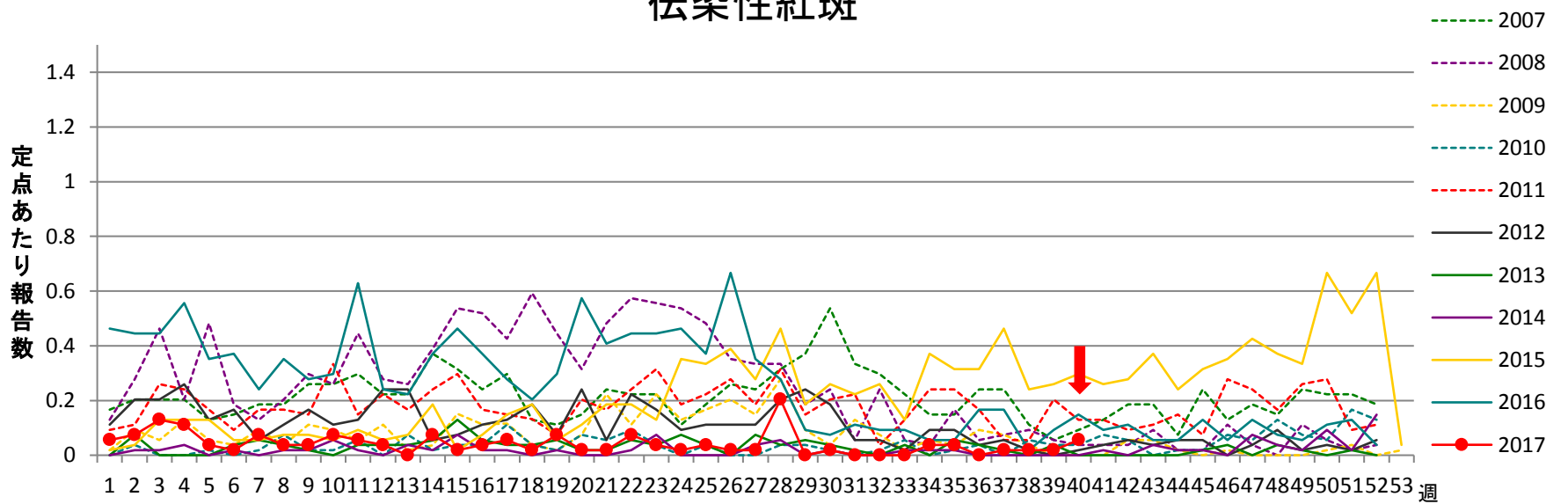
### 水痘



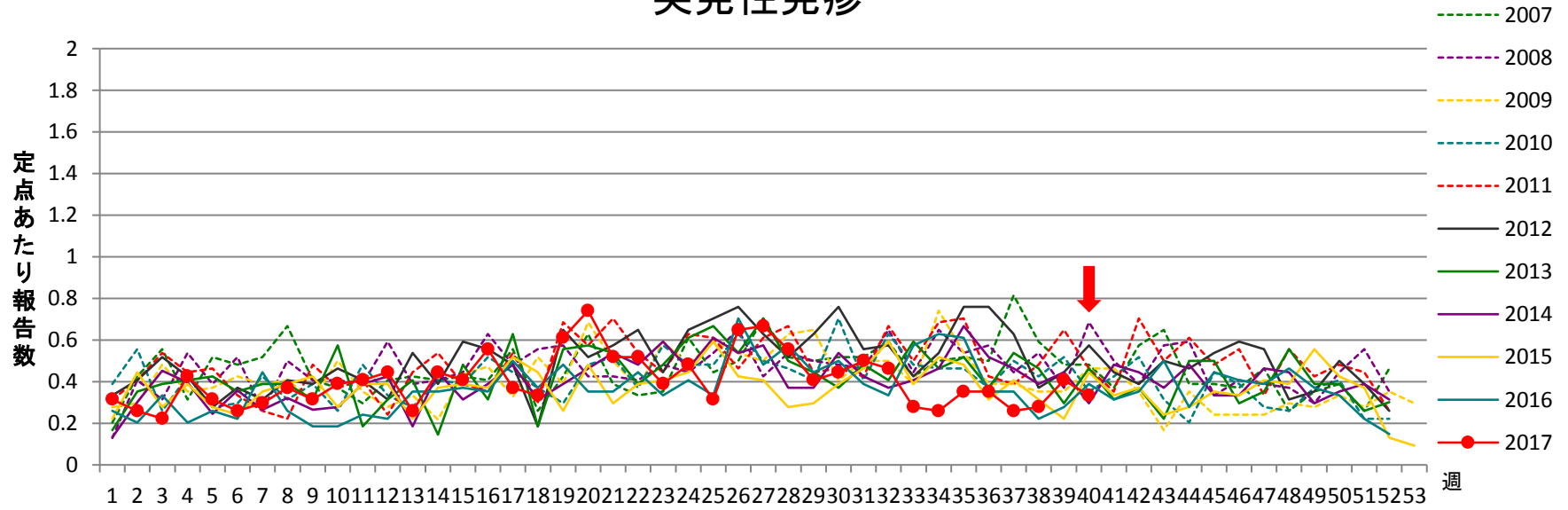
### 手足口病



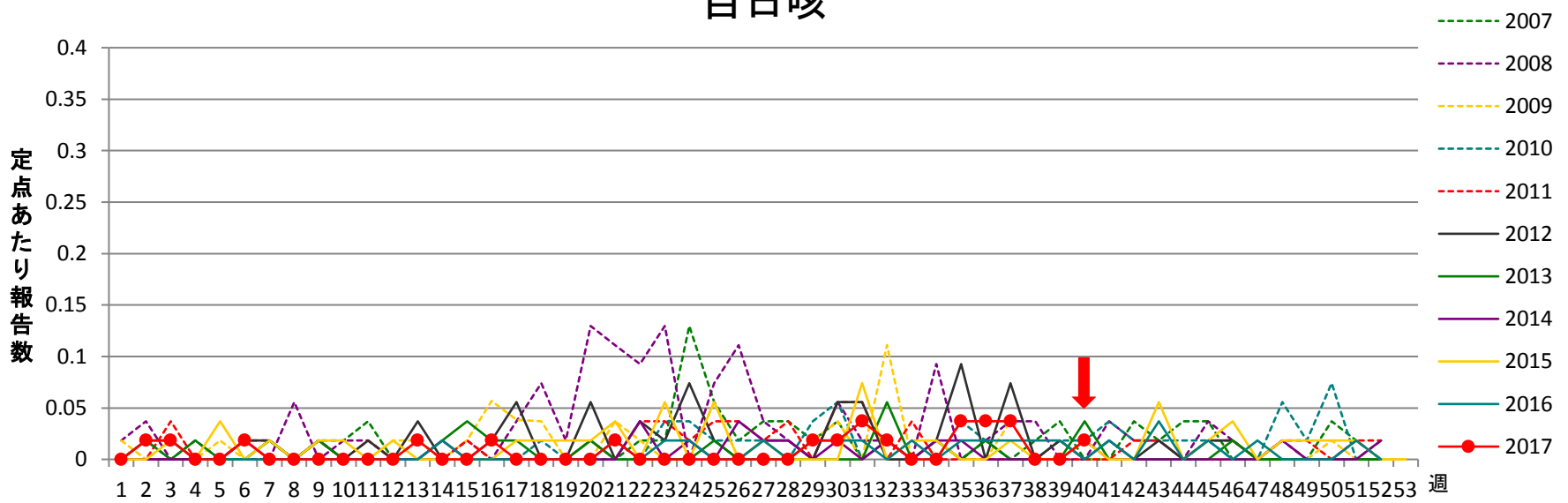
### 伝染性紅斑



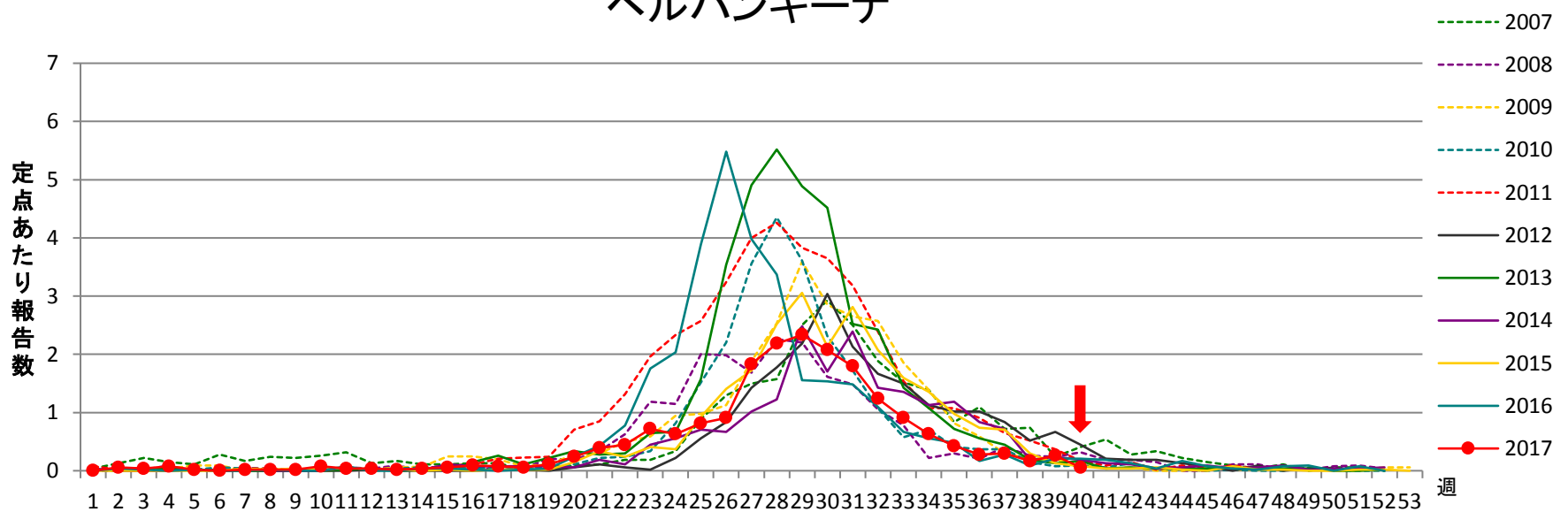
### 突発性発疹



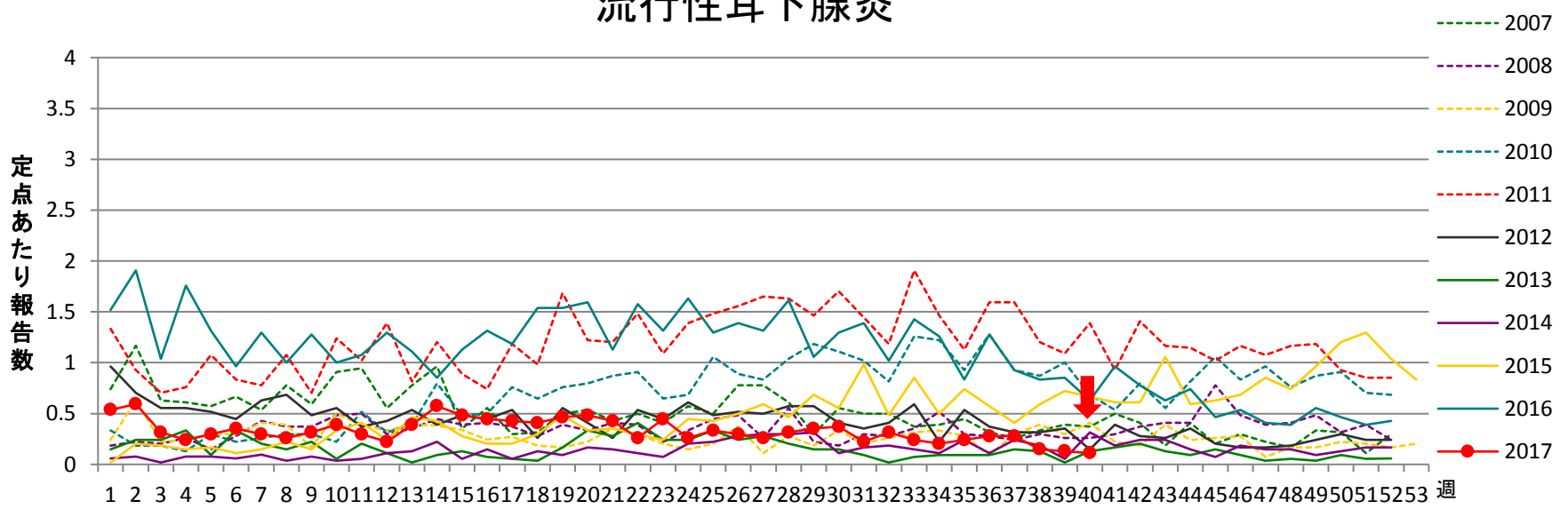
### 百日咳



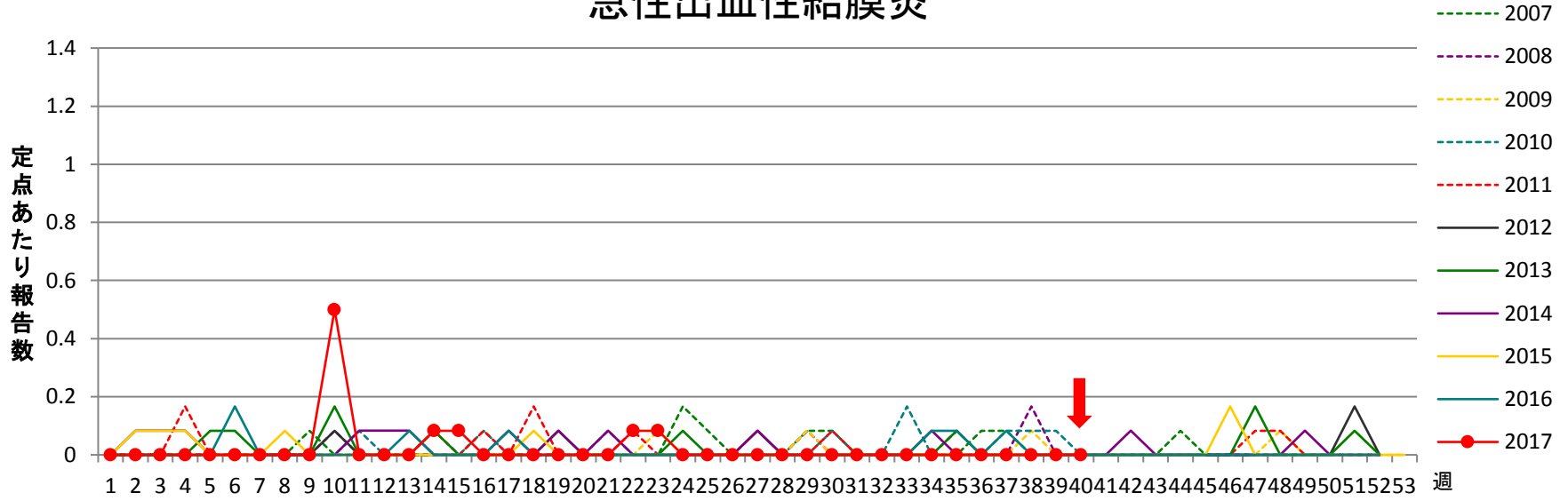
### ヘルパンギーナ



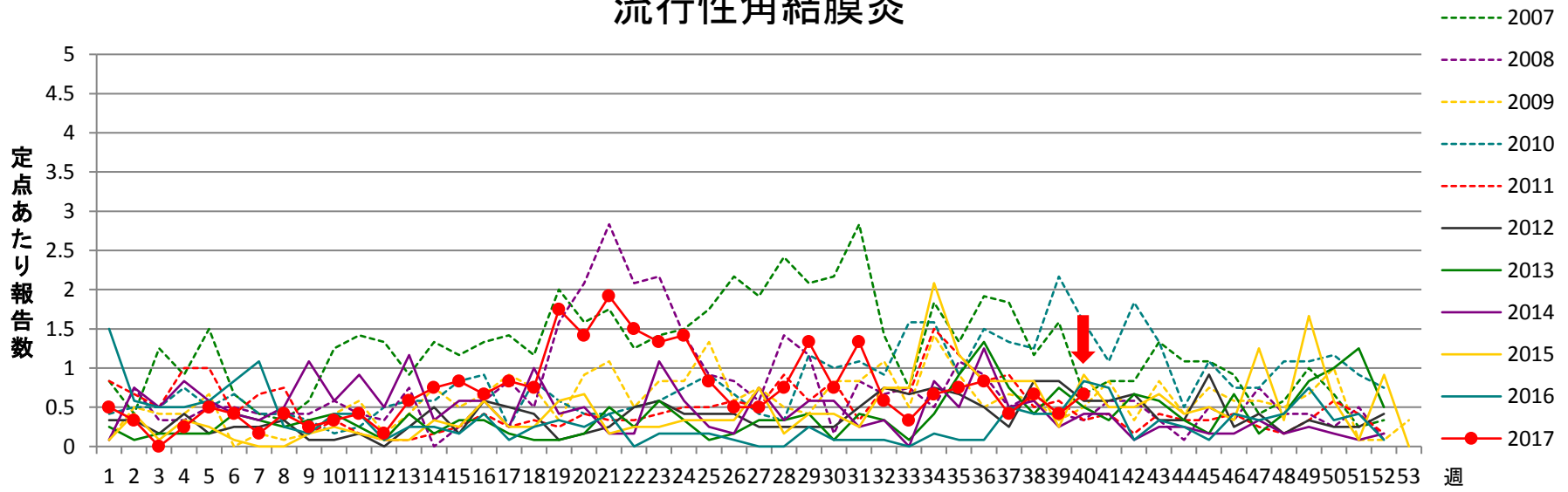
### 流行性耳下腺炎



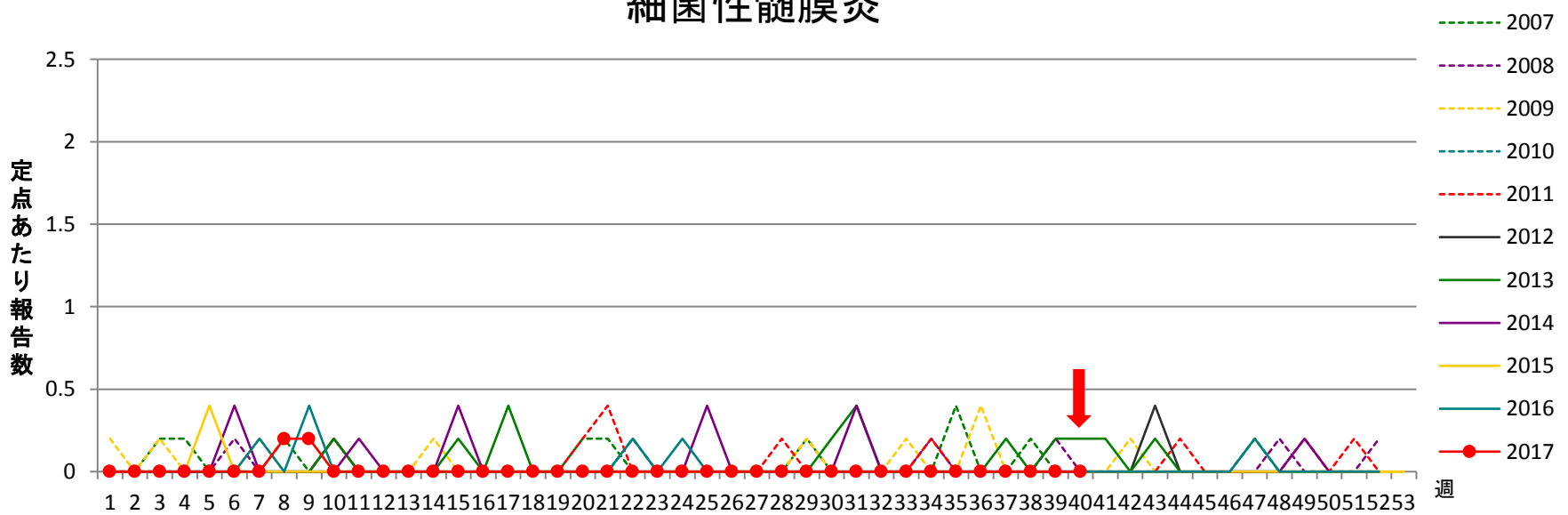
### 急性出血性結膜炎



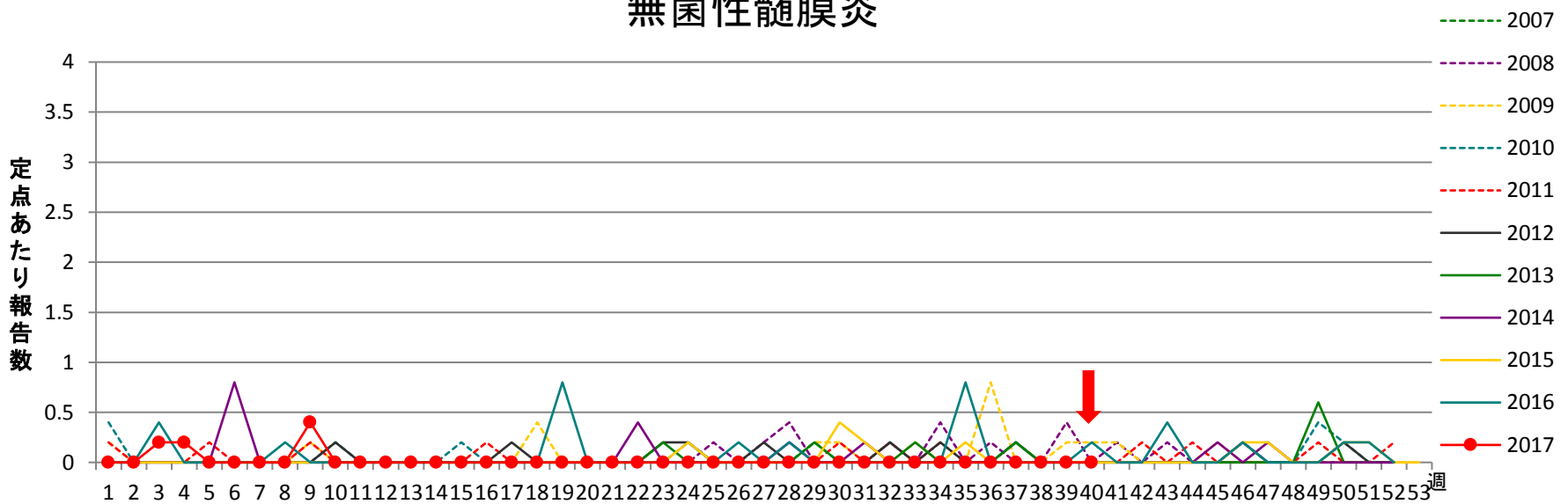
### 流行性角結膜炎



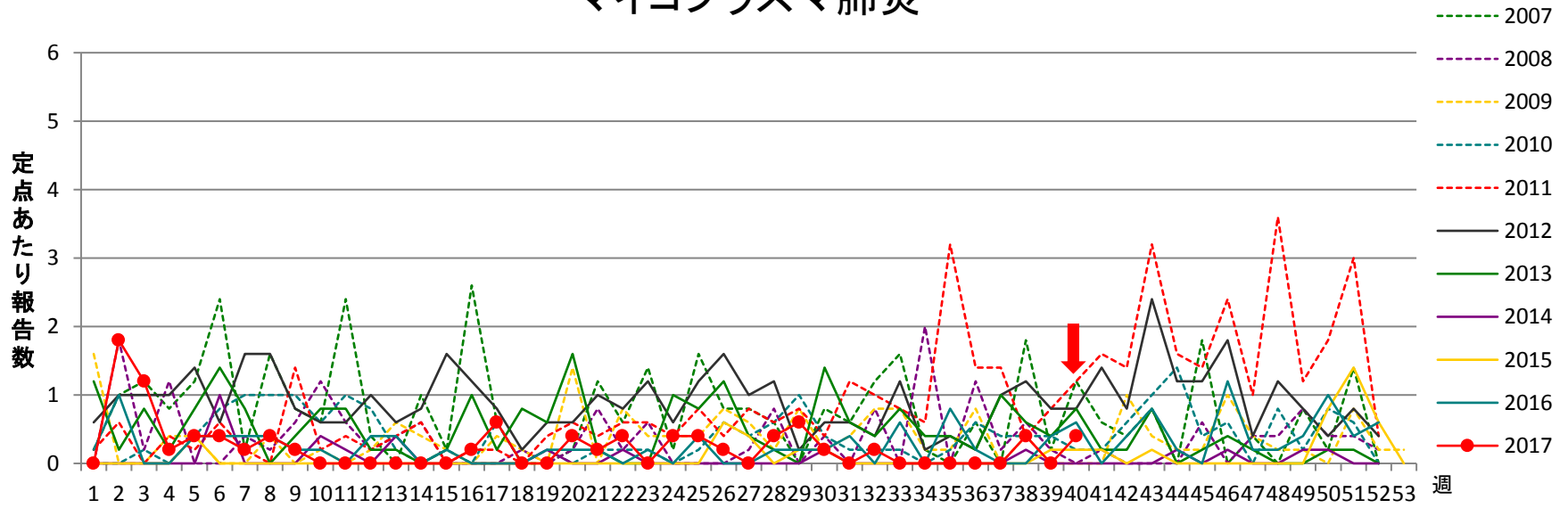
### 細菌性髄膜炎



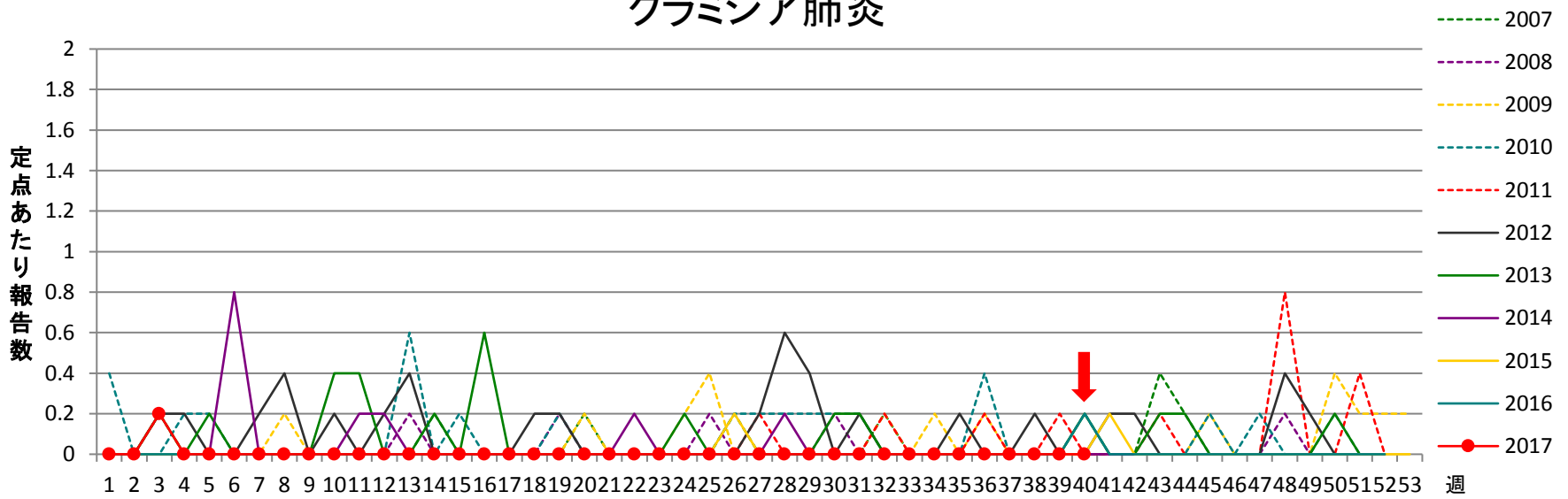
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

